

<手すり・段差解消 内訳例>

住宅改修費工事費内訳書

業者印を必ず押印すること。
※別途表紙に業者印が押印されている場合には、ここでは押印不要

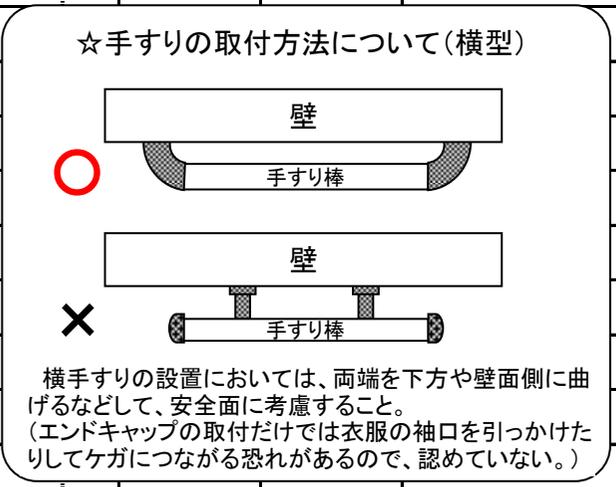


(被保険者名) _____ 様

工事施工者 _____

部屋名	部分	名称	内容(仕様)	数量	単価	金額	対象部分		住宅改修の種類	算定根拠
							数量	金額		
玄関	手すり	縦手すり	木製(型番など) φ35×500	1本						
		エンドブラケット	(型番など)	2個						
		補強板	20×80×600	1枚						
		取付工賃		1式						
廊下	手すり	L字手すり 縦600+横1500	木製 φ35 (型番など)	2.1 m	(1mあたり単価)	(数量×単価)				
		エンドブラケット	(型番など)	2個						
		コーナーブラケット	(型番など)	1個						
		L付受ブラケット	(型番など)	1個						
		取付工賃		1式						
玄関	段差解消	木製踏み台	W600×D300×H150 (既製品であれば型番など)	1個						
		取付工賃		1式						
廊下～居間	段差解消	段差解消スロープ	W800×D100×H30 (既製品であれば型番など)	1本						
		取付工賃		1式						
		諸経費		1式						
		値引き								
		小計								
		消費税		8%						
		合計								

☆手すり部品の記載方法について
手すりの棒の部分について、名称・内容・数量等についてはどちらの記載方法でも構いませんが、記載方法については統一してください。(下の記載方法のほうが、好ましい)



☆工事費内訳書の作成に関して
住宅改修の対象となるか否か、また施工方法が適正であるかを判断するためには、改修箇所及び数量、長さ、面積等が明確にされている必要があります。区分が難しい場合を除き、材料費・施工費等については適切に区分し、内訳書の記入をお願いします。

※値引きや端数調整等を行う場合は、消費税の課税前に行ってください。